

公表

事業所における自己評価総括表

公表日 R8年3月27日

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和7年12月2日		～ 令和7年12月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	令和7年12月2日		～ 令和7年12月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援センターとしての関係機関との連携体制	<ul style="list-style-type: none"> ・市の担当課や保健センター、保育所、幼稚園との交流や情報交換を実施している。 ・自立支援協議会への参加や、地域に向けた研修会を開催し、地域支援を行なっている。 ・保育所等訪問支援、計画相談支援担当者との頻繁な情報交換を行ない、支援に活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な情報交換・会議に加え、必要に応じて随時情報交換を行い、本人及び家族支援に反映させていく。 ・行事等を通して、地域に広く周知していく。
2	多種多様な活動プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが様々な経験ができるようなプログラムを日々組み立てている。 ・歯科医師や歯科衛生士、栄養士を講師に迎え、歯科検診や歯みがき指導、栄養指導を実施することで、子どもの健康状態の維持、改善に向けた支援を実施している。 ・ペアレント・トレーニングを実施することで、保護者の学びの場を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の子どもに応じた環境や遊び、保護者のニーズに応えたプログラムの拡充。 ・必要に応じて、関係機関につなげていく。 ・参加者の増員。
3	子どもが身体を動かして遊ぶことができる環境を十分に確保している。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の刺激を受け情緒を安定させたり、身体機能の向上を図るため、プレイルームと称し、トランポリンやすべり台、ボールプール等を用意した部屋を常設している。また、壁に各器具の効果や目的を掲示することで、保護者への理解を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味・発達に応じて、配置や遊具を替え、工夫を凝らした環境設定を行なっていく。 ・遊具の正しい使い方や、集団のルール等、分かりやすい言葉がけを行なうとともに、視覚的に理解できるような工夫を行なう。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	作業療法士、言語療法士の常勤職員がいない。	個別療法の他、通常療育の場面でも、助言があると良い。	将来的には、常勤職員の採用を検討していきたい。
2	同年代の子どもと一緒に関わる機会が少ない。	周りに公園が少なく、子どもがあまり利用していない。	保育所等の園庭開放への参加などを積極的に取り入れる。
3	保護者との連絡調整が不自由である。	イベントの周知や連絡手段が、お手紙の配布や訓練室の掲示や電話のみである。	今年度、導入したアプリを今後広く活用していく。